

極東開発工業  
CSR報告書  
2014

# INDEX

1	トップメッセージ	2
2	トピックス	3
3	CSR	7
4	お客様への責任	9
5	環境への取り組み	11
6	従業員に対する責任	19
7	地域社会への貢献	25

# 1

## トップメッセージ



極東開発工業株式会社  
代表取締役社長  
高橋和也

皆様には、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。極東開発グループは 2015 年に創立 60 周年を迎えますが、企業の社会的責任としてさらに継続的に社会に貢献できる体質を作っていかなければなりません。社会貢献を企業の目的のひとつとするうえで、私たちにとって CSR はまさしく企業活動そのものであり、私たちはこれを常に意識して事業活動を推進していきたいと考えております。

極東開発グループでは 2013 年 4 月から 2016 年 3 月までの 3 ヶ年の中期経営計画「**Next Step 2015**」～さらなる飛躍に向けて～に取り組んでいます。経営基盤の再構築と企業価値の向上に努めるとともに、あらゆるステークホルダーの皆様から信頼され、愛されるグループとして魅力ある企業文化の形成を推進してまいります。創業以来の「技術と信用を重んじ一致協力して企業の生々発展に努力し広く社会に奉仕する」という経営理念のもと、社会的責任を継続的に果たせるよう、グループ一丸となって取り組んでまいります。

今後とも、皆様の一層のご支援とご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

高橋和也

# 2

## トピックス

### 日本初<sup>※</sup>の移動式破碎機



宮城県七ヶ浜町での震災がれき処理(累計処理量:4,546 t)

全国各自治体のリサイクルプラントなどに納入実績がある縦型破碎機「極東・トレマッシュ®」を、グループ会社である日本トレクス株式会社のトレーラに搭載した「移動式破碎機」が、東日本大震災の被災地の震災がれき処理で活躍しました。

※堅型高速破碎機を搭載した移動式破碎機



移動式破碎機

## 事業展開について

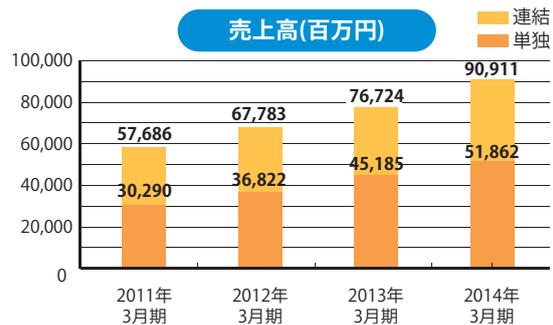
当社は、大きく分けて3つの事業を展開しています。創業からの主力事業である特装車事業、国内で160件以上の実績を持つごみの破碎処理設備を中心としたリサイクル施設等の建設・運転受託を行う環境事業、立体駐車装置の製造やコインパーキング運営等のパーキング事業です。

日本経済は、これまでの金融緩和や規制緩和等の政策の下支えにより堅調に推移していた景気に鈍化の兆しが見え始めています。そのような状況下、国内では高度経済成長期に集中的に整備された道路や橋梁等の社会資本の老朽化への対応、ならびに、将来想定される大規模災害に備えるための防災・減災の強化も急務となっており、当社の永年培ってきたコア技術を結集することでお役にたてる大きな可能性があります。

海外においても当社の技術が活かせる場面が数多く存在します。社会への貢献、世界の発展に向けてその一助となることを使命としてまいります。

いずれの事業も当社にとって重要ですが、既存事業だけでなく、ニーズがめまぐるしく変化し、生活スタイルそのものが短いサイクルで大きく様変わりする現代において、我々企業はそのような変化に的確に、またスピーディーに対応していく必要があります。さらに、新たな価値創造によって時代を切り拓き、よりよい社会の実現に向けて時代をリードするという使命も担っています。既存分野は我々の財産ですが、次の時代を見据えそれらを効果的に融合することによって新たな価値を生み出していくことが求められています。

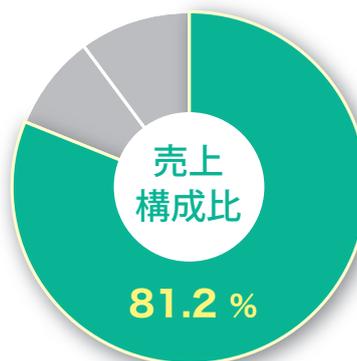
これらについて具体的な目標を盛り込んだ中期経営計画「Next Step 2015」～さらなる飛躍に向けて～を2013年4月からスタートをさせました。その中で、経営基盤の再構築と企業価値の向上によるステークホルダーの皆様との共栄を目指しています。当社はこれを達成しさらなる持続的な発展に向けて邁進してまいります。



## 特装車事業について

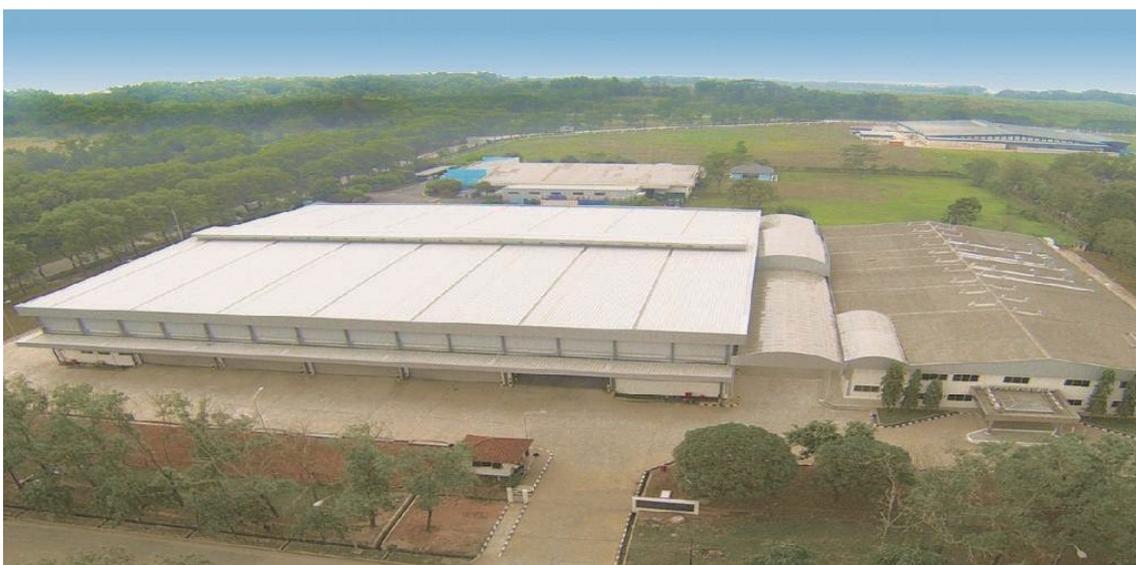
リーマンショック以降冷え込んでいた国内市場が徐々に回復し、政府の経済対策や東日本大震災からの復興需要等もあり、お客様からの特装車に対するニーズが高まっています。当社の持てる技術、製品がお客様に役立っていることを感謝し、ご期待に沿うべく全力で対応してまいります。

一方で長期的には人口減等により市場規模は縮小してゆくことも懸念されます。それらに対する体制づくりは早期に整えなければならない課題です。



(連結ベース)

海外は大きな発展の余地があります。当社は、2005年4月に中国の昆山に、2012年10月にインドのビジャワダに、2014年2月にはインドネシアに生産拠点を設け現地生産をスタートさせました。2015年にはタイにおいても工場の操業を計画しています。今後海外諸国においてインフラ整備による特装車の需要はますます高まっていくものと考えられます。国内で得た様々な技術や、他の事業との相乗効果も図りながら、他社にない独自性を優位性に変えて、先の4工場を軌道に乗せ、KYOKUTO製品を数多く世の中に送り出す体制の構築を進めてまいります。



インドネシア工場全景

## 環境事業について

わが国の廃棄物の発生量は減少傾向が見られ、処理場の数も市町村合併などによって自治体の数が減少する中で淘汰されているのが実情です。また、自治体の財政状況も厳しく、その影響は廃棄物業界に及んでおり、破碎処理プラントを手がける当社にとっても例外ではなく、市場環境は年々厳しさを増しております。

当社はこのような環境の中でも継続的に収益を



船橋市西浦資源リサイクル施設



(連結ベース)

上げていくために、他メーカーとの共同参画、精度の高い情報収集を基にした質の高い提案による新規物件受注の確保、既設プラントの運営受託、メンテナンスなどのストックビジネスへの注力を進めてまいります。また、昨年発表した型破砕機をトレーラに搭載した「移動式破砕機」など新製品開発にも注力してまいります。

## パーキング事業について

立体駐車装置の市場環境は、中長期的には人口の減少によりマンションの着工件数そのものが大きく伸びない状況が予想されます。一方で既存の立体駐車装置のリニューアルなどの需要は増加しつつあり、その傾向は以後も続くと思われます。また、2000年に当社はそれまでの立体駐車装置ビジネスで培ったネットワークを活かしてコインパーキング市場にも参入しました。ユーザーニーズに沿った提案型営業による受注の確保と採算性を重視した運営による収益確保に努めてまいります。



(連結ベース)

## CSR に対する基本的な考え方

当社は、創業時に掲げた経営理念のもと、長年にわたり培ってきた技術と信頼を軸に、お客様やお取引先様などをはじめステークホルダーの皆様とともに、世の中での発展に向けて、新たな価値を創造し続けていきます。

経営理念  
技術と信用を重んじ  
一致協力して企業の  
生々発展に努力し  
広く社会に奉仕する

2003年にCSRポリシーとして、「極東開発工業ビジネス行動規範」を制定し、これをベースに、ステークホルダーとともにスパイラルアップしながら社会の発展に貢献していきたいと考えています。

### ビジネス行動規範（抜粋）

企業が効率や利益を追求し競争を行うこと自体は、正常な企業活動です。

しかし、利益の追求、競争が高ずるあまり、企業活動が社会的正義に反するものになってはなりません。

極東開発工業の企業活動は、お客様やお取引先をはじめ、株主、地域社会などの数多くの人々との関係の中で成り立っており、健全な企業活動を通じて、これらの人々の期待に応える責任があります。

極東開発工業は、企業としての社会的役割、責任を自覚し、社会とともに成長し、発展し続けます。

## コーポレートガバナンスについて

当社グループは、環境の変化に対応して経営方針・経営戦略の迅速な意思決定を行うとともに、その方針や戦略を確実に、スピーディーに、かつタイムリーに実行するための体制を強化し、企業価値の拡大をはかることを主眼とした経営を行っております。また、意思決定から執行までの過程において、法令やルールの順守を徹底するため、監査・監督機能を強化しています。

企業理念の高揚をはかりながら、健全な企業活動を通じ、一企業として、また社会の一員としての社会的責任や役割を自覚して、お客様、お取引先様、株主、地域社会のみなさま、従業員など様々な関係者との良好な関係を築いていくことを、経営上の重要課題と認識しております。

コーポレートガバナンスについては、別途『コーポレートガバナンス報告書』により公開しています。

また、当社の決算に関する情報については『IRレポート』を発行しております。

なお、コーポレートガバナンス報告書およびIRレポートは、当社ホームページでご覧いただけます。



IRレポート

## コンプライアンス

健全な企業活動とは、法令をはじめ社会のルールや当社で定めた行動規範に則った行動を従業員ひとりひとりが行うことによって達成されると考えています。社会人として、また当社従業員として、守るべきルールを常に忘れないよう、社内ネットワークを利用した独自プログラムによる教育や、社内報への関連記事の掲載などを通して、コンプライアンスに対する意識の向上に努めています。



社内報での啓蒙

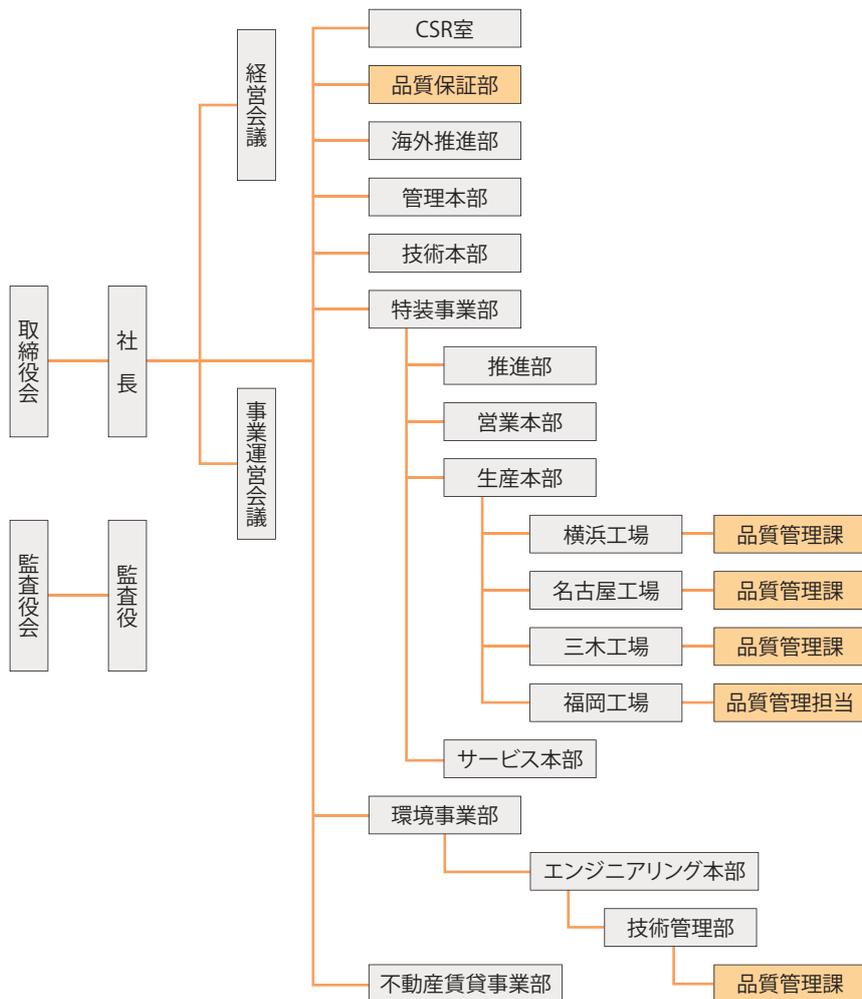
# 4

## お客様への責任

当社は創業以来、一貫して「お客様第一」の姿勢で、品質に重点をおいて製品の製造とアフターサービス活動を行ってまいりました。お客様が安全に、かつ満足して使っていただける製品を作り続けるために、市場からの情報のフィードバックやクレーム撲滅に向けての生産改善を行っています。また使用限度を越えた製品に対する使用停止のお願いなどのケアにも取り組んでいます。

### 品質保証体制

当社では、事業所ごとに品質管理部門を設置し、各所において品質管理体制の構築・運用と検査業務を行っております。また、その統括部門として本社に品質保証部を組織し、全社的な品質管理体制を維持するとともに、各事業所の品質保証活動を評価するため品質監査を行っております。



## 情報開示

当社製品におけるリコールなどの重大な不具合に関しては、速やかに所轄官庁に報告する体制を整えています。またそれとあわせて、できるだけ早期にお客様にその情報が伝わるようにホームページやダイレクトメールでお知らせしています。

なお、リコール情報については当社ホームページでご覧いただけます。

届出日	件名	対象車種・機種
2013年5月8日	ベーンポンプ内軸シールに関する不具合	小口配送ローリ
2013年5月24日	ダンプ操作用コントロールワイヤに関する不具合	大型ダンプ
2013年8月1日	制御基盤の端子台の表面処理に関する不具合	パワーゲート® CG型
2013年8月30日	パワーユニットコントローラの制御プログラムに関する不具合	パワーゲート® CG型
2014年1月20日	後軸左舷内側タイヤの接触に関する不具合	コンクリートポンプ車

## サービス品質の向上に向けた取り組み

近畿サービス課では、アフターサービスに必要な製品知識と修理技術の向上を目的として、近畿地区の指定サービス工場を対象に、パワーゲートに関する基本的な知識やトラブルシューティングの方法について講習会を行いました。そこでは、マニュアルには表現できないような日常業務を通して得たノウハウや修理のコツといったものを伝えることができたのと同時に、実際にトラブル対応の現場でしか得ることができない体験を参加者全員で共有できたのは、当社のサービス品質向上に大きく繋がるものでした。

今後も充実したアフターサービスを提供することで、お客様満足度の更なる向上を目指してまいります。



サービス講習会

# 5

## 環境への取り組み

私たちは生産に必要な資源やエネルギーはもちろんのこと、さまざまな点で自然から多大なる恩恵を受けて事業活動を行っています。これを念頭に、私たちは、地球環境をより良い状態で次代に引き継ぐための活動を、あらゆる事業の場面で自主的かつ積極的に行います。

私たち人類にとって、地球環境はかけがえのないものです。私たちは、環境を守ることが企業の責務であり、経営の重要課題と考えます。

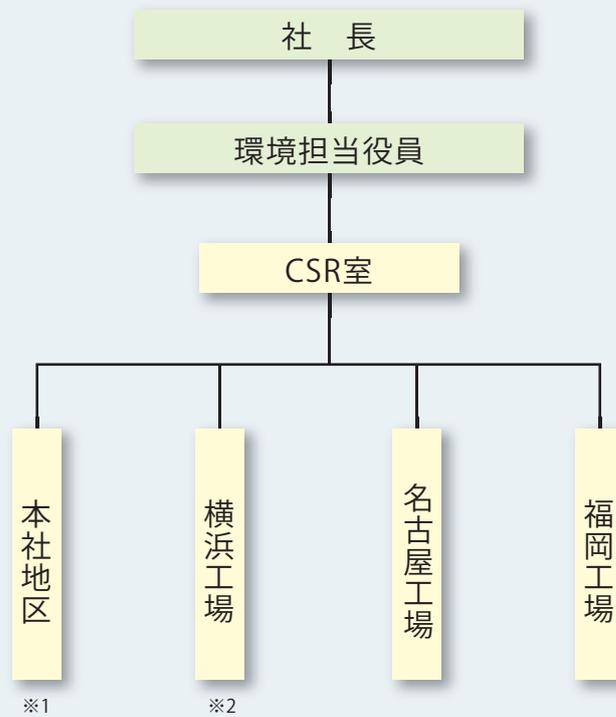
- 基本姿勢**
- ① 環境問題に積極的に取り組み循環型社会を追求する
  - ② 地球環境の保全に役立つ技術開発を指向する
  - ③ 公害防止、省エネルギーに配慮する
  - ④ 製品の再資源化に注力する
  - ⑤ 良好な環境の維持向上に努める

### ● 中期環境計画

	目 標	2013年度実績	達成度評価
地球温暖化	CO <sub>2</sub> 排出量：2020年度に1990年度比25%削減	1990年度比11%削減	○
資源循環	特装車生産拠点でゼロエミッションを達成 (廃棄物最終埋立処分重量0.5%未満)	0.1%	○
大気汚染	VOCの排出抑制に努め、削減率の維持を図る。 (2000年度比で30%削減)	2000年度比47%削減	○

## 推進体制

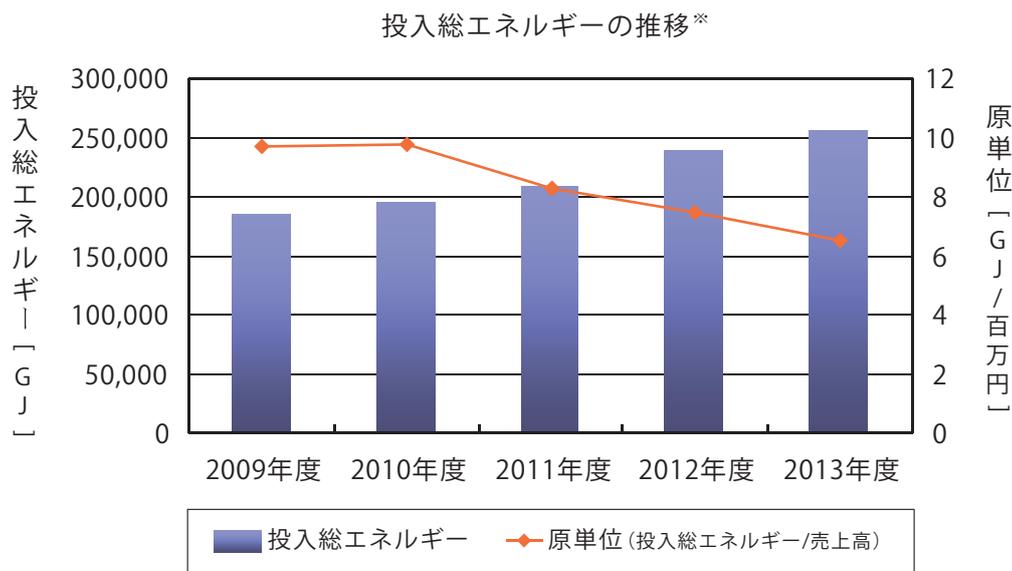
当社は、本社事務所をはじめ5つのサイトで ISO14001 の認証を取得し、各サイトとも環境保全に積極的に取り組んでいます。2006年4月に設定したCSR室は全社の事務局的な役割を担い、各サイトと連携して環境担当役員の指導の下、環境マネジメントシステムを推進しています。なお、環境事業部は2008年4月より本社と統合運用を開始し、環境保全活動を進めています。



※1 三木工場を含む    ※2 東京本部を含む

ISO定期審査風景

## CO<sub>2</sub> 削減に向けて



生産量の増加に伴い CO<sub>2</sub> 排出量そのものは増加しましたが、省エネ設備の導入や運転効率の改善などによってエネルギーの効率的な利用は進んでいる状況です。

また、全国4事業所では ISO14001 の認証を取得しており、その中での改善プログラムを通して業務改善と連携した環境改善活動も進めております。



断熱工事を施した工場屋根(三木工場)

### ●2013 年度に行った CO<sub>2</sub> 削減に繋がる主な設備投資

工場の屋根の断熱化	横浜工場 三木工場
老朽化した空調機の更新	本社
高効率型変圧器への更新	本社
ハイブリッド車の導入(営業車12台)	本社、環境事業部、各営業所

## 環境会計

環境保全への取り組みを効率的、かつ効果的に推進することを目的として、事業活動における環境保全のためのコスト及び効果の把握を、2009年度より環境省ガイドラインに沿って集計しています。

### 環境保全投資

単位：百万円

コスト分類	主な取り組みの内容	2012年度実績		2013年度実績		前年比増減	
		投資額	費用	投資額	費用	投資額	費用
(1) 事業エリア内コスト		56	49	90	52	34	3
①公害防止コスト	公害防止設備、水質汚濁防止などのコスト	6	15	0	13	△6	△2
②地球環境保全コスト	省エネルギー設備のコスト	49	0	90	0	41	0
③資源循環コスト	廃棄物の分別回収、処理などのコスト	1	34	0	39	△1	5
(2) 上・下流コスト	グリーン調達、リサイクルなど	0	0	0	0	0	0
(3) 管理活動コスト	ISO関連費用、教育	0	2	0	3	0	1
(4) 研究開発コスト	環境配慮設計の商品開発	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表	非公表
(5) 社会活動コスト	自然保護、緑化、環境団体への寄付、支援	0	0	0	0	0	0
(6) 環境損傷対応コスト	環境汚染の修復費用	0	0	0	0	0	0
合 計		56	51	90	55	34	4

※なお、上記費用には人件費及び減価償却費は含んでおりません。

### 費用削減効果

単位：百万円

分類	項目	効果
収益	廃棄物のリサイクルに伴う収益	101
費用節減※	エネルギー費用の削減	△81
	廃棄物処理費用の削減	△4
	水購入量削減	△2

※対象年実績と前年実績の差を「効果」として算出

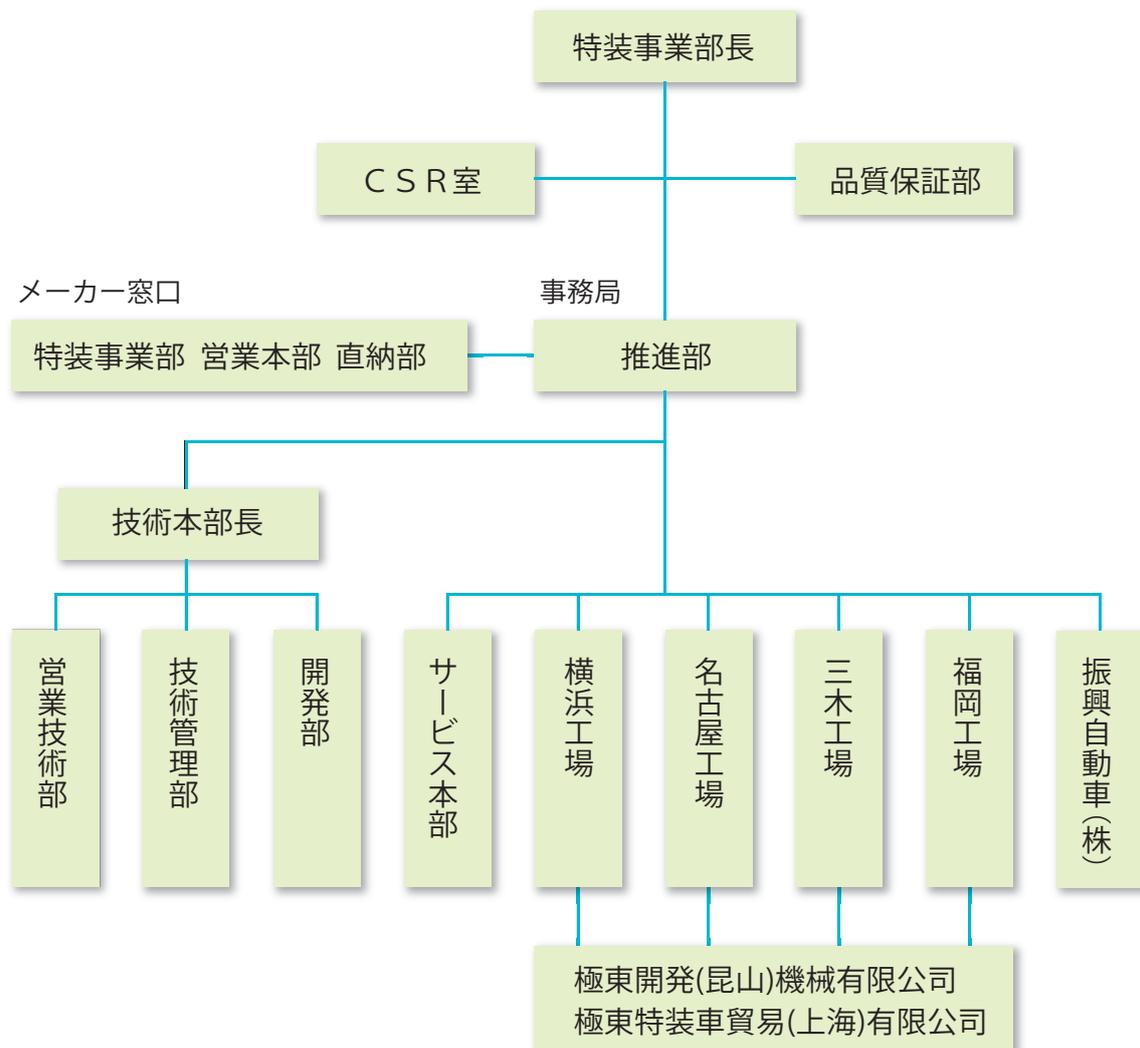
### 環境保全効果

分類		2012年度	2013年度	環境保全効果
事業活動に投入する資源に関する環境保全効果	総エネルギー投入量(GJ)	239,483	256,313	△16,830
	水資源投入量(千m <sup>3</sup> )	143	156	△13
事業活動から排出する環境負荷および廃棄物に関する環境保全効果	CO <sub>2</sub> 排出量(t-CO <sub>2</sub> )	10,452	11,404	△952
	廃棄物総発生量(t)	1,029	1,103	△74
	廃棄物最終処分量(t)	2	1	1

## SOCフリー化に向けた取り組み

当社では欧州廃車指令 (ELV指令: End of Life Vehicle), 業界団体である (社) 日本自動車車体工業会の自主取り組み基準、及びお客様からの要求を踏まえ、2007年末には特装車の一部標準部品において環境負荷4物質 (SOC: カドミウム・鉛・水銀・六価クロム) のフリー化を達成いたしました。

SOCフリー化の維持と共に、特装車に対するお客様からの新たな化学物質管理要求に適切に対応していくため、特装事業部長をトップとする化学物質管理体制 (図) をもって化学物質の管理強化に取り組んでいます。具体的な取り組みとしては、サプライチェーンを含めたエビデンス及びSOCフリー宣言の見える化、工場内での啓蒙ポスターの掲示などを行っています。



## 製品への明示

SOC フリーを宣言できる製品については、製品カタログやパンフレットにて表示を行い、お使いになるユーザーのみなさまにお知らせしています。

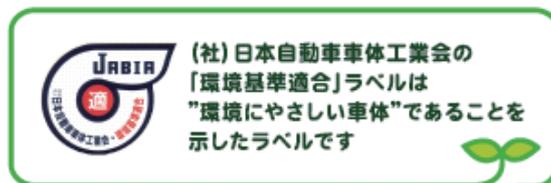
また、(社)日本自動車車体工業会が制定する 3R 判断基準ガイドラインに基づく弊社基準を満たす製品については、環境基準適合ラベルを貼付しています。

### ●製品カタログやパンフレットへの表示



カドミウム・鉛・水銀 及び 六価クロムの削減を実現した製品です。

### ●適合製品を表すステッカー



## 環境月間

### ● 環境講演会

6月の環境月間にちなんで毎年開催してきた環境講演会も、2005年の初回から数えて10回目の節目を迎えることとなりました。今回は、環境経営ではリーディングカンパニーとして知られるリコージャパン株式会社様から講師をお招きし、『環境経営の実践によるコスト削減・競争力の向上』と題し、リコージャパンの工場で行われている環境改善事例を紹介していただきました。

また、もうひとつのプログラムとして、当社の環境配慮型製品として発売されたeパッカーの開発担当者による、昨今の廃棄物事情や製品開発における苦労談などの講演を行いました。



講演会風景

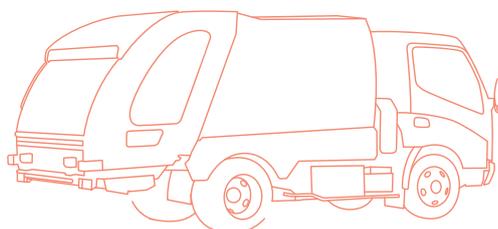
## 電動式塵芥収集車「eパッカー®」の紹介

(講演者) 開発部

開発部として初めて環境講演会でお話をさせていただきました。eパッカーは2009年10月に発表した製品で発表当時は極めて先駆的な製品でありましたが、同時期に一大ブームを期待されていた電気自動車と同様、販売面での苦戦が続いております。

講演では、エネルギー効率の向上や低騒音化に向けた様々な工夫についてお話ししました。その環境性能が、実際に使用されるお客様の直接的なメリットにつながりにくいという苦しさがあるのも実情です。

今後はこの開発を通じて得た技術に磨きをかけ、エコロジーかつエコノミー、地球もお客様も共に嬉しい製品の開発を目指してまいります。



## 環境標語

環境意識の向上を目的に、環境月間にちなんで従業員から環境標語を募集しております。  
今回は 161 件の応募があり、その中から優秀賞 3 作品、優良賞 9 作品が選ばれました。

### 優秀賞

#### 暑い夏 クールに仕事 効率化

特装事業部 推進部

#### 気くばり、目くばり、エコくばり

生産本部 横浜工場 管理課

#### 我々の 少しの工夫で ゴミが減る

生産本部 三木工場 管理課

### 優良賞

#### ダイエット クールビズへの 第一歩

サービス本部 サービス技術課

#### そのゴミも 循環させれば 資源です

特装事業部 推進部 標準課

#### 思い切って 捨てることも エコ活動

極東開発パーキング(株)

#### いつやるの? 今がやる時 エコライフ

生産本部 横浜工場 管理課

#### 見直そう ムダな消費 身につけよう エコ習慣

生産本部 横浜工場 管理課

#### ゴミ捨での 分別一つで 小さな成果

生産本部 名古屋工場 工務課

#### ECO ライフ 未来に届ける 贈り物

営業本部 直納部 直納課

#### 目を凝らせ ゴミと資源が 見えてくる

極東サービスエンジニアリング(株)

#### ちょっとした工夫で 大きな効果

#### あなたが取り組む 環境保全

極東サービスエンジニアリング北海道(株) 中沼事業所

# 6

## 従業員に対する責任

当社では、従業員の多様性を尊重し、安全で働きがいのある職場づくりに努めています。  
また、グローバルな事業展開と更なる企業価値の向上を目指すうえで必要な、自律的な人材育成に力を注いでいます。

### 求める社員像

- 常に、自立（自律）心を失わず、他に依存しない。  
＜自分に対する厳しさ＞
- 常に、公を優先し、私を後にする。  
＜社会・顧客・会社・部門に対する企業人としての心＞
- 常に、正義・道義を大事にし、ごまかしがない。  
＜人間としての正しさ＞
- 常に、謙虚さを失わず、傲慢さが無い。  
＜自己を省みる姿勢＞
- 常に、チャレンジ精神を持ち、安易に妥協しない。  
＜深く考え、失敗を恐れずに深遠を持って行動する姿勢＞

## 階層別研修の実施

右図のとおり1年を通じて全社員を対象に、各階層で求められるスキルを育成するためのさまざまな教育を行っています。

### ● 入社1年目

入社1年目の新卒社員に対しては、社会人としてのマナーをはじめ、当社の経営理念や歴史、製品知識などについての基礎教育を行っています。

### ● 入社2年目と3年目

入社2年目と3年目には、社会人としてスタートしてからの行動を振り返る機会を設け、そこで再度、基本的な内容についての教育を行うことで、より確実にレベルアップしてもらう体制を作っています。

### ● 中堅社員

係長やマネージャー職を含めた中堅社員を対象とした研修や、セクハラ・パワハラについての教育なども体系的に行っています。





キャリア開発研修



フォローアップ研修



管理職養成研修



新入社員フォロー研修

### 研修を受講して（横浜工場 生産技術課）

研修を通して、仕事の進め方について再確認することができました。仕事の進め方では、課題に取り組む際には固定観念にとらわれずいろいろな方法を考えることが重要だと改めて感じました。また、確認事項のダブルチェックを行うことで小さなミスを無くし、メンバーへの情報共有にも繋がったと思います。この研修で学んだことを実務に活かせるように意識して業務に取り組みます。

## 技能検定

特装部門の中長期的な溶接品質向上を目的として、第2回溶接技能検定全社大会を開催しました。各工場やサービス部門から13名が参加し、コンテスト形式でその腕を競い合いました。



検定風景

## 報奨制度

業績改善や新製品の開発など会社業績に多大な貢献をした者（チーム）に対して、毎年創立記念式典にて社長より表彰を行っています。2013年度はチーム賞として3チーム、功労賞32名、また発明に関連するものとして、発明優秀賞を4名と発明奨励賞4名が、それぞれ表彰を受けました。



チーム製玉道場(横浜工場)

## その他の制度

当社の技術や技能など、専門性の高いものについては高く評価すると同時に、その育成についても制度を整えています。

### ● 技監・マイスター・シニアマネージャー制度

当社の技術や技能の発展に向けて、高い専門性を有する者を対象に経営会議で選任しています。

### ● 資格奨励金制度

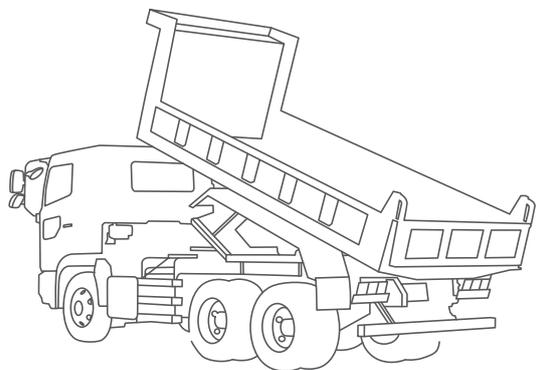
業務に関連のある公的資格など 105 種類を対象に奨励金を支給し、社員のレベルアップを促進しています。

### ● 語学奨励金制度

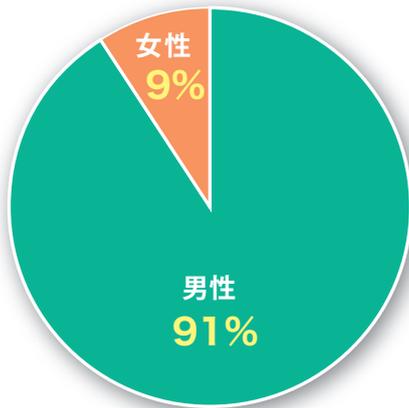
海外でも通用する人材を育成するために、英語、中国語を対象に奨励金を支給し、語学力の向上に努めています。

### ● 社長表彰制度

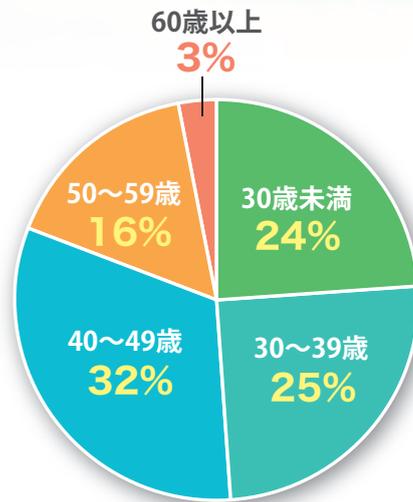
業務改善や新製品の開発など会社業績に多大な貢献をした者（チーム）に対して、毎年の創立記念式典にて社長より表彰を行っています。



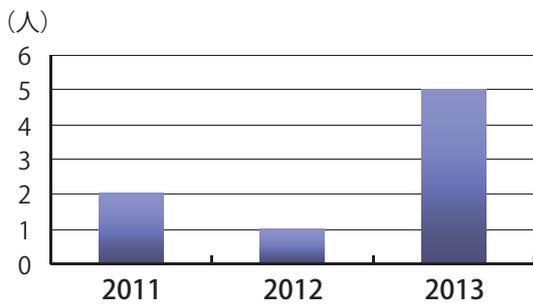
## 従業員データ



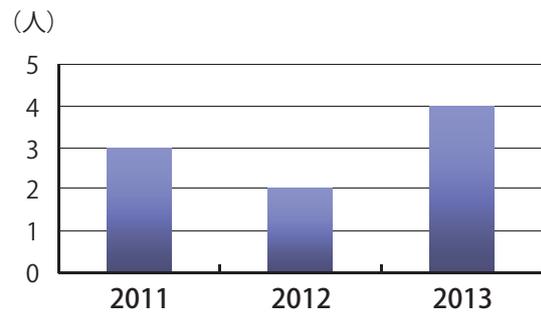
従業員性別構成



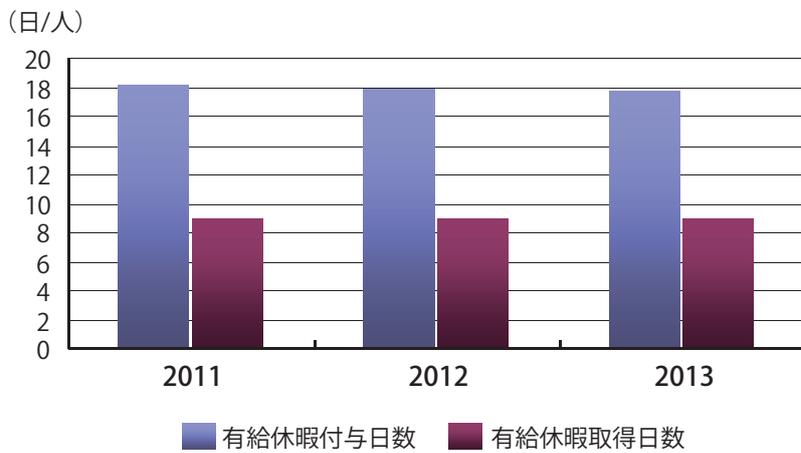
従業員年齢構成



産休取得者



育児休業取得者



有給休暇の消化状況

# 7

## 地域社会への貢献

地域社会との積極的なコミュニケーションやさまざまな取り組みを通して、地域に信頼される企業をめざします。

### 地域清掃活動への参加

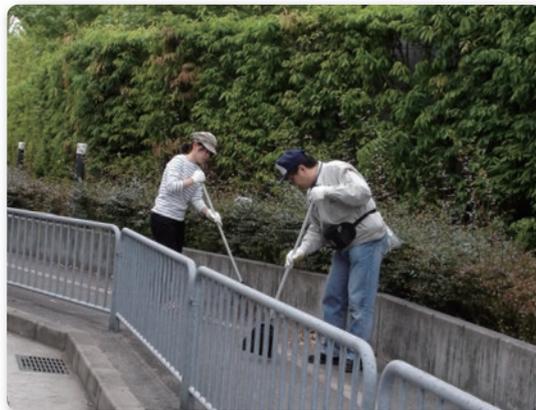
河川の清掃やごみ拾い活動など自治体や地域が行う活動に参加し、街の美化に努めると同時に地域住民とのコミュニケーション向上に努めています。



大山川清掃活動(名古屋工場)



深見西工業会環境美化活動(横浜工場)



わがまちクリーン大作戦(本社)

## 工場見学の開催

モノづくりへの関心と地域産業への理解を深めてもらうために、横浜工場と三木工場では小学児童や地域の方々を対象に工場見学会を開催しています。

事業所	工場見学	
	団体数	見学者数(人)
三木工場	6	186
横浜工場	31	1,132
合計	37	1,318



三木工場



横浜工場

## その他の地域活動への参加

東条湖おもちゃ王国（兵庫県）主催の「はたらくくるま大集合！」のイベントに、環境に配慮した電動式塵芥収集車「eパッカー®」を出展しました。

当社のコーナーでは、運転席に座って記念撮影をしてもらったり、用意したわなげコーナーで遊んでいただき、当社の製品をより身近に感じていただけるイベントへの参加を行っています。



展示の様子



わなげコーナー

## 地域消防大会に出場

毎年、本社および横浜工場では、地域の消防署が主催する自衛消防操法大会に参加しております。今回は、本社から2チーム、横浜工場からも2チームが参加し、地域消防の一翼を担うべく防災体制の強化に取り組んでいます。



本社チーム

**本社** 男子チーム 15 チーム中 13 位  
女子チーム 11 チーム中 8 位

**横浜** 消火器チーム 16 チーム中 2 位  
消火栓チーム 8 チーム中 5 位

### 対象範囲

組織：極東開発工業株式会社  
期間：2013年4月1日から2014年3月31日

### 問い合わせ先

極東開発工業株式会社 CSR 室  
兵庫県西宮市甲子園口 6-1-45  
TEL：0798-66-1417 FAX：0798-65-6595